

SDGsで 官民連携を実現する方法



こども食堂支援機構

秋山 宏次郎

自己紹介



こども食堂支援

フードロス等200万食寄付



イノベーション



SDGs



マーケティング

4分野の専門家

大学で授業やったり講演会やったりいろいろ...

たとえば



<https://amzn.to/3e2nnTF>

SDGs本を監修

専門家として



記者



監修・プロデュース・コメンテーター

マスコミの仕事も

その関係でCSR担当者との接点が多く



東洋経済
CSR
データ

国内最大規模

1,614社のCSR活動を
896項目で徹底リサーチ

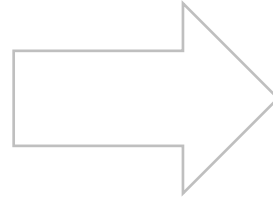
国内のCSR格付けで最大である東洋経済新報社「CSR企業総覧」関連でも執筆

多くの上場企業と
直接/間接的接点₅

その関係性もあって



企業や自治体にプロジェクトを提案



新規プロジェクト

多数のプロジェクト
発起人に

SDGs×イノベーションでテレビの仕事



事業の創造を
目指す番組

こども達に食品ロス問題を調べてもらい



ソーシャルビジネスを
新たに考える放送回

小学生が胸を痛めた



卵を産めなくなると処分される

鶏の処分問題

小学生が



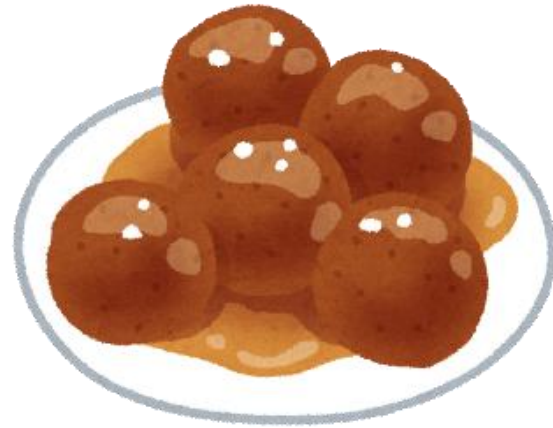
捨てられる命を
大切に食べたい

良い意見なので



ロケ中に
石井食品に電話

廃鶏を使った



製品開発が決定

その場で協力を申し出る小売店

SEIBU

Sunshine City

西武百貨店ら
販路確定

つまり



製造・販路・広告
すべてが一瞬で仲間に

ロケ中にソーシャルビジネスが成立まで

※画像はテレビ東京の「田村淳が 池袋innovation council」の画面を撮影したもの



わずか5分

この番組



豊島区
TOSHIMA CITY

豊島区も協力

紆余曲折あって



※東京新聞より

SDGs教育ほか 協働することに

民間⇒自治体への例②

【イオンモール春日部主催】SDGs講演会
子どもでもわかる！SDGs
～なぜSDGsが必要なのか～



【プロフィール】
秋山 宏次郎氏

一般社団法人こども食育支援機構・代表理事、SDGsオンラインファスチナ・ソーシャルイノベーションディレクター、企業版ふるさと納税の新たな活用モデル構築が戦略会議・学識委員、企業から食品の寄付やフードロスを集めた全国のこども食育に100万食以上を提供、大手企業の社員時代から他社や行政に種々な提案をし、内閣府認定の官民連携優良事例（全国共通）など、20以上の新規プロジェクトを発起人として多くの案件を事業に導く。監修したSDGs、なぜSDGsが必要なのか。がわかる本はソーシャルマーケティングを絡めることにより6月で8刷のベストセラーに。その他にも、大学での授業、講演、執筆活動まで幅広く活動するパシフィックワーカー。

日時・場所 **先着50名 参加無料**

2021年6月5日（土）
14：00～15：00
イオンモール春日部専門店街
1階 藤の広場



講演会後、参加者の皆様には講演会の感想をご記入して頂きます。記入頂いた感想文は「食品ロスについて学ぼうパネル展」と一緒に掲載させていただきます。
*講演会参加者は朝9:30より専門店街1F（Dモール西入口）にて各回の参加整理券を配布いたします。
(10:00以降は、会場の1F 藤の広場にて配布)

食品ロスについて学ぼうパネル展

日時：2021年6月5日（土）～6月20日（日） 10：00～21：00
場所：イオンモール春日部専門店街 1階B-3レストラン東入口共用部通路
協力：春日部市 リサイクル推進課
イオンモール春日部

イオン春日部での SDGs講演

SDGsイベントを検討中の市が相乗り



共
催



春日部市
KASUKABE CITY

A colorful poster for the "3rd SDGs Cafe" (第3回 SDGsカフェ) titled "親子で考えるSDGs 講演会" (SDGs Lecture for Parents and Children). It features a photo of the speaker, Akiyama Hiroaki (秋山 宏次郎氏), and provides event details: 12/12 (Sun) 11:00~ at 専門店街1F 藤の広場. The text describes the event as a collaboration between Kasukabe City and Aeon Mall Kasukabe, aimed at helping parents understand SDGs for their children's future.

「第3回SDGsカフェ」は、春日部市とイオンモール春日部の協働のイベント(講演)として開催いたします。これからの未来を担う子どもたちがSDGsをより理解できる機会とし、また、親子でSDGsを考える機会とすることを目的に実施します。秋山宏次郎氏により、SDGsの基礎的な内容を分かりやすく・理解しやすくご説明いただきます。

【プロフィール】秋山 宏次郎氏
春日部市子ども未来支援課 次長補佐
SDGsがきっかけでさまざまな分野で活躍する若手人材育成支援課 学識委員
企業と自治体の連携やCSR活動を推進するために2019年度より参事
大学業の社会貢献が求められる時代に合わせた授業も、
所属する自治体職員研修会(生涯)など、
20以上の各種プロジェクトを個人として多くの機会を把握し、
経験したこともSDGs、なぜSDGsが必要なのか学べる等、
イベントもワークショップを兼ねることにより親子で理解を深め、
その他にも、大学での授業、講演、執筆活動まで幅広く活動もしている方。

時間 11:00~
場所 専門店街1F 藤の広場

規模は大きく 負担は分担!

(会場の設営費や司会の人件費など)



(官民間わす)
組織連携の潤滑油

官民連携手法の1つとして

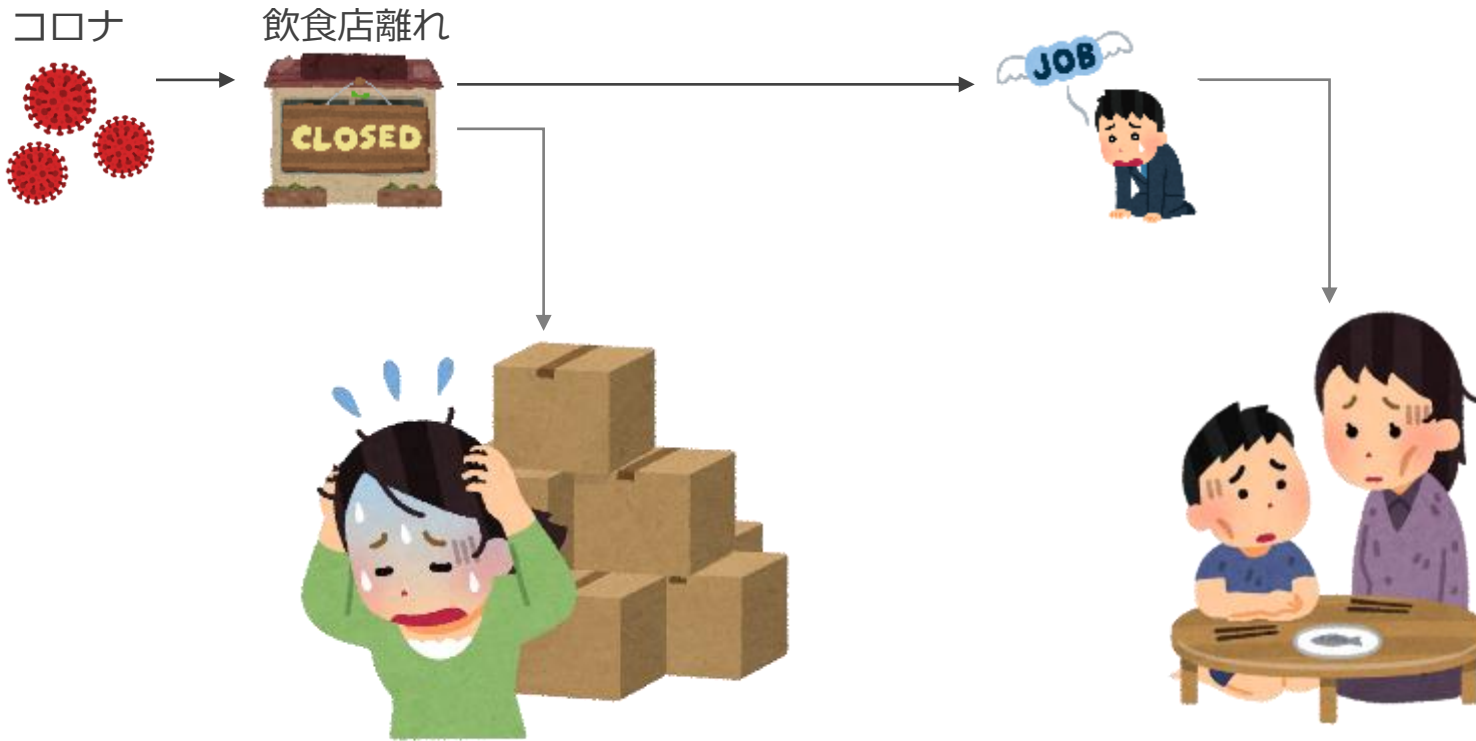
SDGsに取り組む民間のイベント



民間のSDGsイベント
を覗いてみる

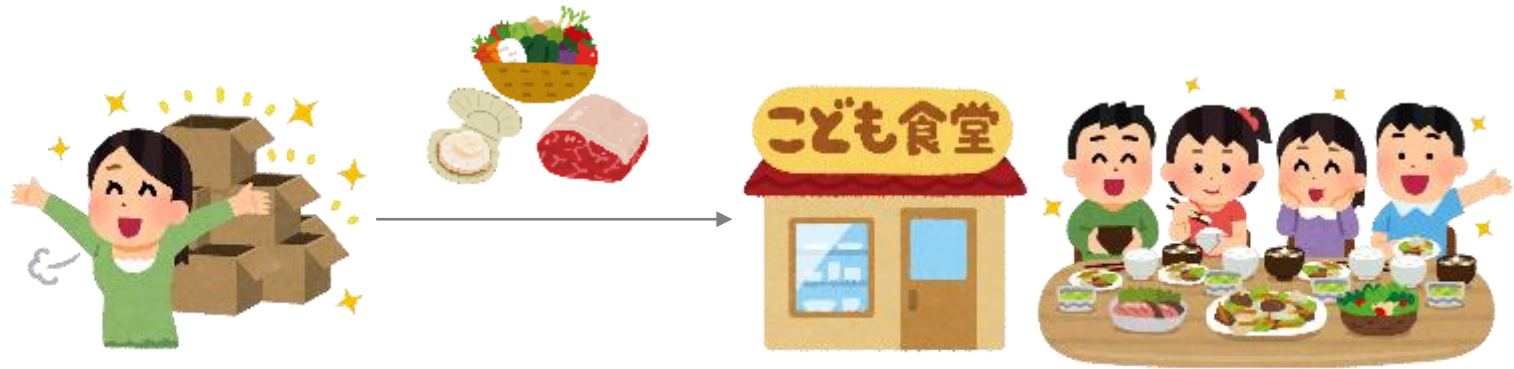
最初から官民での連携事例①

コロナで生じた課題2つ



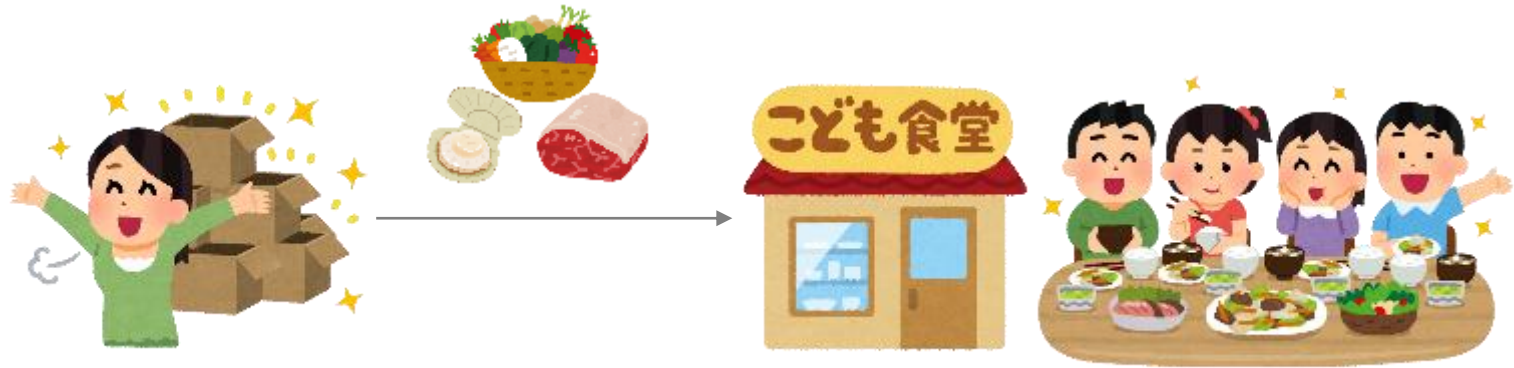
両者を掛け合わせ

生産者から買い取りこども食堂に送る



ダブルで解決

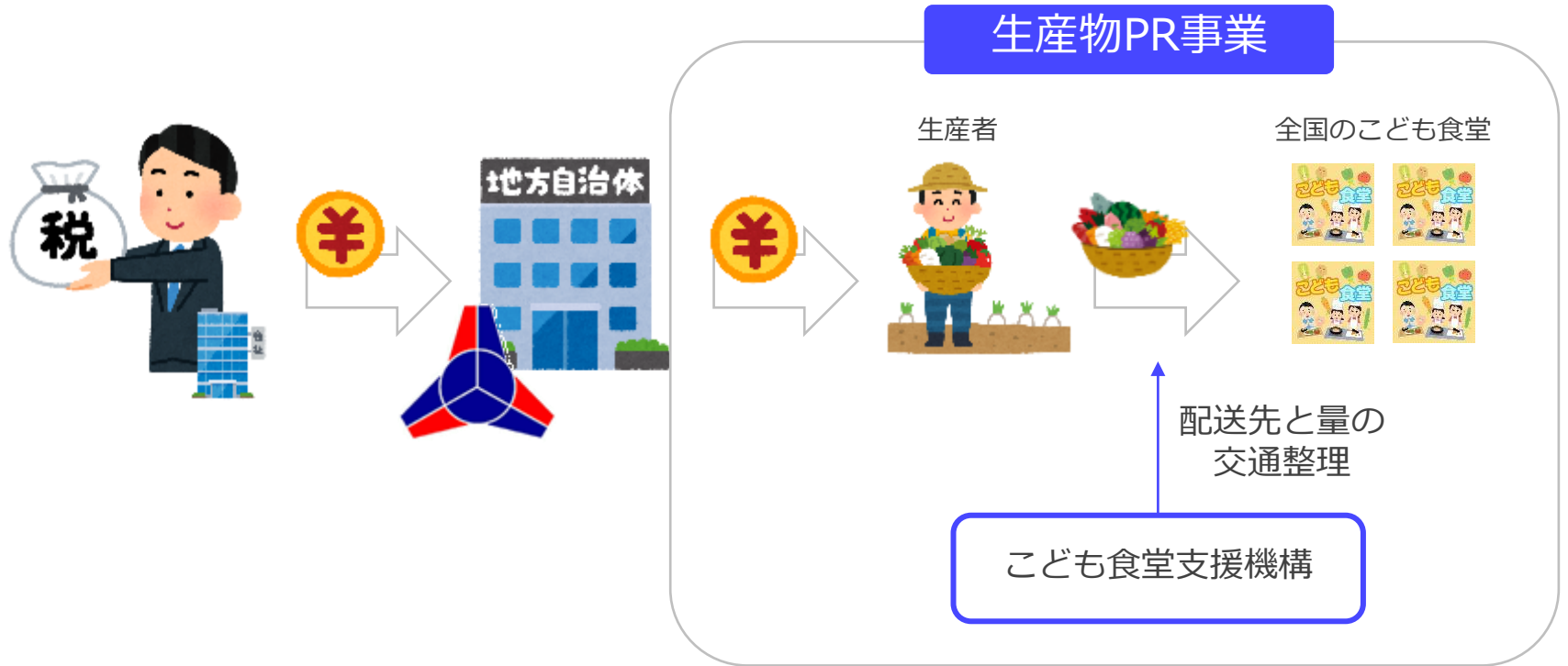
生産者から買い取りこども食堂に送る



企業版
ふるさと納税

原資は企業版
ふるさと納税²⁵

北海道 猿払村の前例



自治体や生産物のPR
として制度設計

こども達への手紙封入



関係性を作り会社と
自治体を知ってもらう

飲料メーカーも協力



売上全額寄付！

世界初の
売上全額寄付自販機

姫路でメンタリングした高校生を神輿に

女子高生が発案、「貧困」と戦う自販機登場 売上げを子ども食堂に

ツイート

シェア 86

印刷



売上げ全てが市内の子ども食堂に寄付される自動販売機を発案した市川美保さん（右）と銀ビルストアの大塚兼史専務＝姫路市白浜町乙

拡大

飲料を買うと売上げの全額が兵庫県姫路市内の子ども食堂に寄付される自動販売機がこのほど、ボンマルシェ白浜店（姫路市白浜町乙）と英賀保店（同市飾磨区英賀清水町）に設置された。飾磨高3年の市川美保さん（17）が発案したアイデアを、同店を運営する銀ビルストアやキリンビバレッジが実現した。売上金全額が寄付される自販機の設置は国内で初めて。（安藤真子）

市川さんは昨年、国連が掲げる「持続可能な開発目標（SDGs）」について授業で学んだ。17ある目標から一つを選んで解決策を考える課題で「貧困」を選択。誰でも簡単に参加できる自販機での募金を発案した。

若者が地方創生を考える「播磨まちづくりアイデアコンテスト」（播磨ひとづくりコンソーシアム主催）に応募したところ、姫路青年会議所や子ども食堂支援機構（東京）が実現に協力。「高校生の熱意を応援し、食を通じて



※神戸新聞

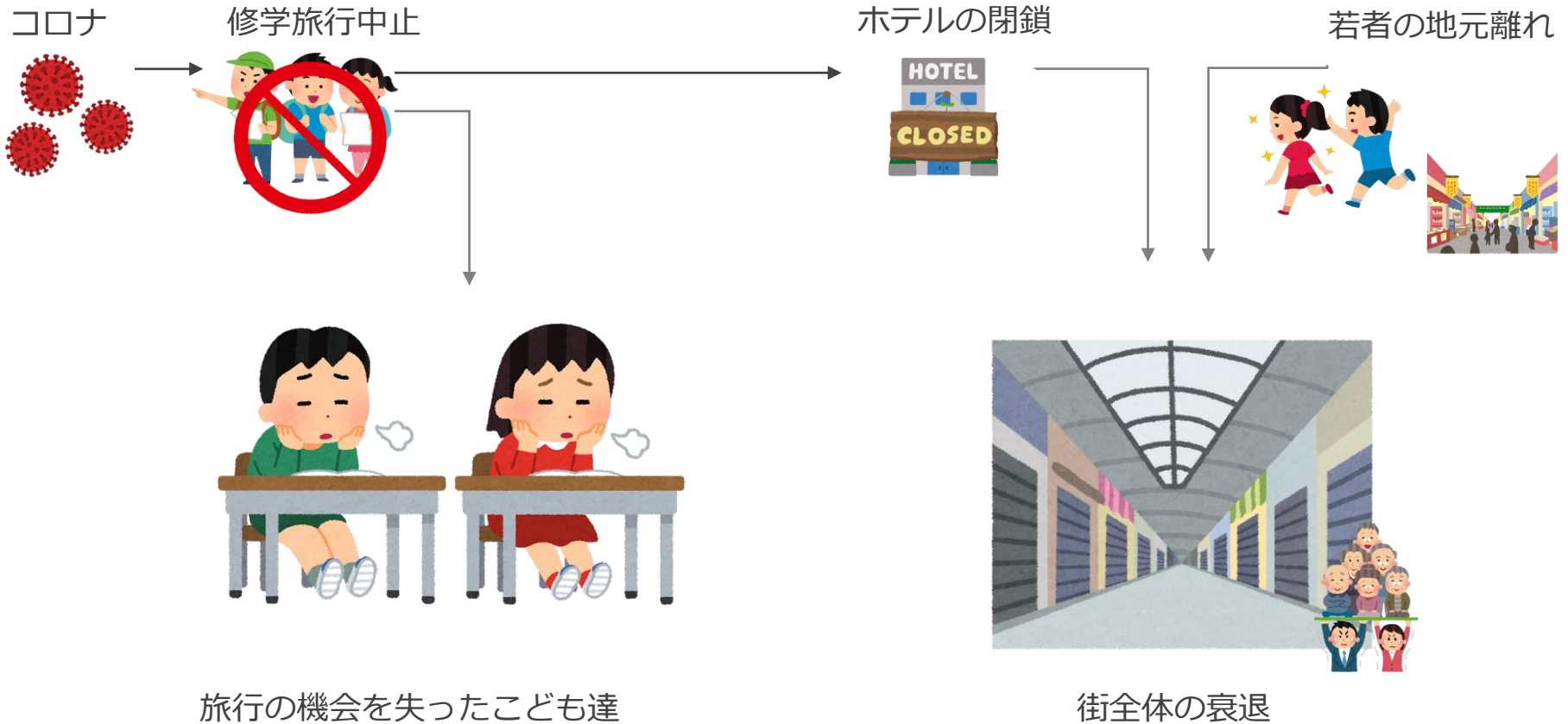


※TBS系ニュース「Nスタ」

マスコミ各社で 全国放送

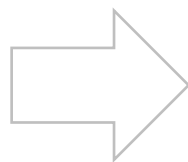
最初から官民での連携事例②

ふるさとと納税で解決する2つの課題



両者を掛け合わせ

旅行経験の少ない子を中心に



自治体アンバサダーとして招待

自治体の観光大使的に 無償でツアー招待

(こども単独も親子も可)

コロナで何度か延期になりつつも

トップ 速報 ライブ 個人 オリジナル みんなの意見 ランキング

主要 国内 国際 経済 エンタメ スポーツ IT 科学 ライブ 地域

松山を第2の故郷に 関東の小中学生が中島で自然体験ツアー

11/6(土) 20:50 配信 2   



子どもたちに松山市を第2のふるさとにしてもらおうと6、7の両日、関東の小中学生に島しょ部の中島の自然などを体験してもらうモニターツアーがあった。市やANAグループなどでつくる実行委員会が主催。

ツアーは、持続可能な開発目標（SDGs）をテーマに昨年開催されたオンラインイベント内の「第1回SDGs提案グランプリ」で同市が受賞した提案に基づき実施。地域資源を生かした体験メニューを用意した。

6日は、11～13歳の13人が空路で松山入り。中島までの船旅ではフェリーの甲板で潮風を浴び、早速目を輝かせた。宿泊先の「ほしふるテラス姫ヶ浜」に到着すると、煮付けや刺し身など地魚料理を堪能。家の近くに海がなく、料理の違いや釣りを楽しみにしていた鈴木信玄さん（13）＝千葉県＝は魚が「新鮮でおいしかった」と笑顔を見せた。

夏休み中の開催がコロナで延期になり、学校によっては授業のある土曜日を含む日程にせざるを得なかった。それゆえ参加できなかった子への配慮もあり、地元紙以外への積極的なマスコミへの情報提供は自粛。

しかし「アンバサダー」としてツアー参加してもらっているため、コロナが落ち着いた後にまたPRに協力いただく可能性も。

無償招待の団体旅行 リベンジ修学旅行

行けなかった修学旅行



食事の時間が一番うれしそうな男子



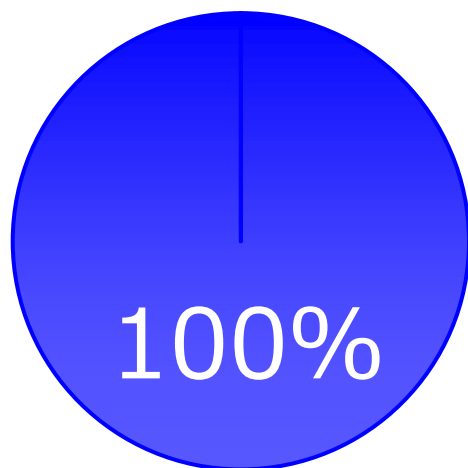
ANAからのプレゼントに微笑む女子

一生の記憶に
⇒ 強烈な関係人口

(しかも親も含めて若い層)

ツアー後のアンケート結果

また将来、松山に訪れたいですか？



■ はい

■ いいえ

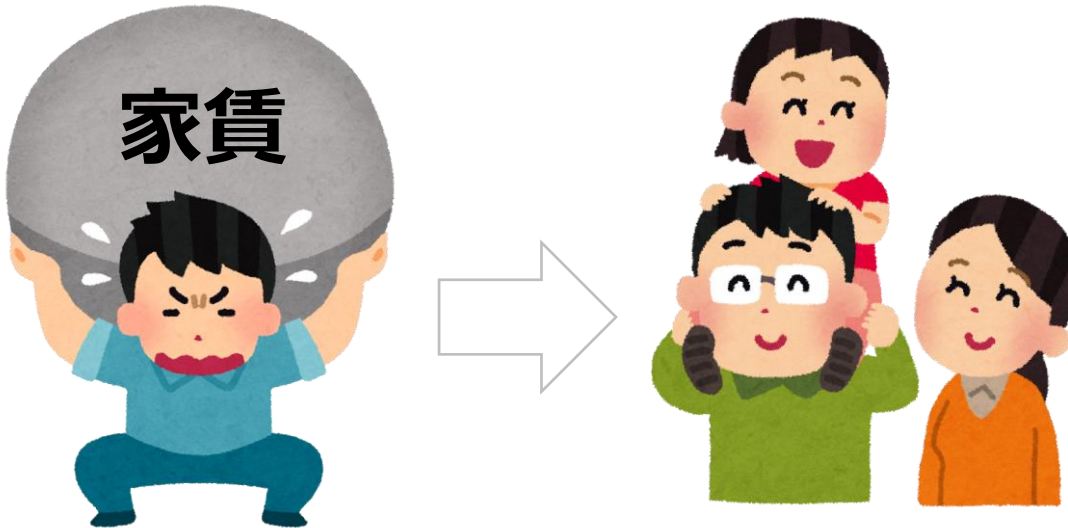
◆コメント一例

- ・えひめのみりよくが伝わりました。またえひめに行きたいです。
- ・みかんがもらえてうれしかったです。また訪れたいです。
- ・また行きたいと思いました。空気が美味しく、山・海などもありキレイでした。
- ・**松山市とANAにお礼を伝えたいので連絡先を教えてください**（後日秋山への問合せ）

再訪希望率

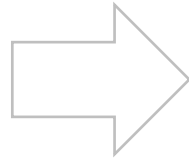
100% (13/13)

家賃が異常に高い都心部から



地方の豊かな生活に
気付く機会

ANAさんも協力



※ANA広報イメージ

会社として広報

某大手旅行代理店



同様の事業から
パッケージ化希望

(対象自治体検討中)

ふるさと納税企画 2つのポイント

自治体 & 企業のメリット

こども食堂に来る子は、旅行や高品質なものを食べる経験が少ない子も多い



こんなおいしいもの
初めて食べた



自治体や協賛企業PRをセットに



株式会社〇〇さんと、市町村△△のおかげだったんだね

⇒一生もののファンが獲得できる



こども自身や食堂運営者から
感謝の手紙が来ることが多い

⇒通常の広告では獲得不可能なロイヤルカスタマーに

直接ファンを 獲得できる

若者は無条件で応援される

甲子園球児



プロ野球選手



競技レベルがプロより低くても
「応援したくなる」人は多い

企業もマスコミも
応援したくなる

共感によって意外な協力者も

複数の有名スポーツチーム



オフィシャルパートナーになる方法
増やします！

- 1億円のスポンサー料
- 3億円を自治体に寄付 (←new!)

※金額などはイメージ

寄付でも 公式スポンサーに！

(追って全国紙でイベント予定)

協力者と協働でこどもの支援をすると



**関係人口創出
街や特産物のPR
産業振興**

他の課題に対する
解決策にもなる

連携事例から見えること

例に挙げた話の全て



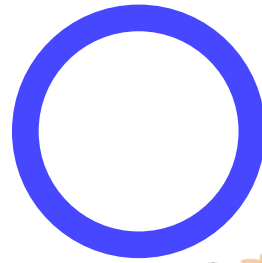
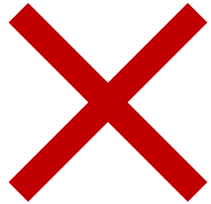
共通点がある

自治体単独では不可能だった



官民の連携は
不可能を可能にする

自治体で厳格な事業計画は無かった



先に決めすぎると
参加の余地がない
⇒効果的な事業は対話から⁴⁷

まとめ

- 官民連携で事業インパクトは激増できる
- 民間を動かすにはメリットか共感が必要
- 一方的な企画は両方とも満たせない
- メリットや共感ポイントの確認には対話
- 民間のSDGs企画に参加するのも手
- 具体案が無くても気軽に民間に相談を！

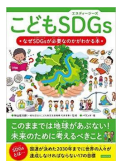
連携できそうなことがあれば



こども支援



イノベーション



SDGs



マーケティング



リベンジ修学旅行



各種講演



特産物配布



フードロス、エシカルファッション、
イベント実施などなど

官民間問わずお問合せください

一般社団法人 こども食堂支援機構代表理事 秋山宏次郎
アドレス : domoboku@gmail.com